

埼玉学園大学・川口短期大学 機関リポジトリ

校庭に残るサクラのシンボルツリーに対する児童の意識について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): symbolic tree, consciousness of the children, elementary school 作成者: 長友, 大幸, 翁長, 武輝, ONAGA, Takeki メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/1557

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



校庭に残るサクラのシンボルツリーに対する 児童の意識について

A Study of the Consciousness of the Children to the Symbolic Tree
of Cherry Blossoms in the Schoolyard

長 友 大 幸・翁 長 武 輝

NAGATOMO, Hiroyuki ONAGA, Takeki

1. はじめに

小学校の正門や校庭には必ずというほど樹木が生育しており、その樹木をシンボルツリーとして扱っている学校も多い。既往の研究では、小学校において校庭の樹木に接した経験を多く持つ児童ほど、学校を離れた日常生活において身近な樹木に対する関心や保護意識が高まることが指摘されている¹⁾。また、在学中に校庭のシンボリックな巨樹に頻繁に接した経験のある児童ほど、卒業後も学校の巨樹に愛着を持ち続けることが認められている²⁾。しかし、その対象は比較的長寿であり巨樹として存在することが多いクスノキやケヤキ、イチョウなどであることが多い。しかし、フジやサクラなど大きさに加えて美しい花を咲かせるものもあり、そうした樹種についても調査研究が必要と考えられる。特にサクラは子どもから大人までの幅広い年齢層に親しまれており、歌川広重の江戸名所百景³⁾や葛飾北斎の富嶽三十六景⁴⁾などの浮世絵にもサクラが描かれた場面を多く見ることができる(図1、2)。また、「みよし野のちか道寒

し山桜」(与謝蕪村)や「初桜折しも今日はよい日なり」(松尾芭蕉)など、サクラを題材に詠まれた俳句も多い。このように古くから浮世絵に描かれたり、俳句に詠まれたり、サクラは日本人の心のよりどころとなっている。

そこで本研究では、小学校に残存するサクラのシンボルツリーをケーススタディとして取り上げ、シンボルツリー係わる児童の意識を通じて、その残存意義や教材としての価値などを探るための基礎資料を得ることを目的とした。

2. 調査地の選定及び調査方法

(1) 調査地の選定

本研究の調査地の選定条件として、小学校校庭にサクラのシンボルツリーが存在すること、アンケートの協力が得られることを条件とした。そして、その条件を満たす埼玉県南部に位置するK小学校を調査地とすることとした。

キーワード：シンボルツリー、児童の意識、小学校

Keywords : symbolic tree, consciousness of the children, elementary school



図1 江戸名所百景（歌川広重）



図2 富嶽三十六景（葛飾北斎）

（2）調査方法

①現地調査

調査校を訪問し、シンボルツリーの残存状況を確認するとともに、学校へのヒアリングを行い、学校としてのシンボルツリーへの係りや意識を把握することとした。

②児童へのアンケート

シンボルツリーに児童がどのように係り、児童にとってどのような存在となっているのかアンケート調査を通じて把握する。調査項目は「落ち葉が季節を感じさせてくれる」「歴史を感じさせてくれる」などシンボルツリー

の評価や好感度、保護意識などについて回答を求めることとした。そして、児童のシンボルツリーに対する意識、シンボルツリーへの接触や活用など、児童とシンボルツリーとの係りの実態からその存在意義を探った。

3. 結果及び考察

（1）現地調査

①残存状況

調査校のシンボルツリーは、百年桜と名付けられたソメイヨシノの巨樹である。樹齢100年を越える巨樹であり、市の指定保存樹



図3 サクラのシンボルツリー百年桜

木となっている。生育状況は幹を中心に老朽化しているため、倒壊を防ぐために柱を設置して支えている(図3)。

②シンボルツリーに係わる取り組み

シンボルツリーに対し、調査校では「さくちゃん」というマスコット化したキャラクターが作られている(図4)。このことから、学校にとってのシンボリック存在として位置づけられていることがわかる。しかし、ソメイヨシノの寿命は60年ともいわれており、そこから考えればすでに寿命を超えている。そのため、学校では百年桜の二代目として比較的大きなシラカシをシンボルツリーとしていこうと考えていることがわかった。

(2) 児童へのアンケート

5・6年生を対象に2019年11月下旬から12月上旬にかけてシンボルツリーの百年桜が児童の意識にどのような影響を与えているか調査した。回収数は5年生48部、6年生40部、



図4 百年桜のマスコット「さくちゃん」⁵⁾

合計88部であり、男女別では男子46名、女子42名であった。そして、学年間、男女別の結果を集計し、フィッシャーの正確確率検定によりその有意差を調べた。

①シンボルツリーの評価

シンボルツリーを評価する各項目について「思う」「どちらともいえない」「思わない」の3段階で回答を求めた。

a. 学校の景観形成

百年桜は「学校の景色をよくする」との項目に対して表1に示すように、「思う」との回答が59名(67.0%)と、60%以上の児童が学校の景観を良好なものにしていると感じていることがわかった。百年桜は学校の樹木の中でも大きく目立つ存在であり、毎日のように通学や学校生活の中で触れ、その花や緑陰に対して好意的な意識を持ち、学校の景色を良くしてくれる貴重な存在と捉えていることが伺えた。特に、5年生と6年生との間に有意な差が見られ、1年ではあるが長く接してきた6年生に、良好な美観をシンボルツリーが作り出していると感じている児童が多いことがわかった。

b. シンボルツリーの歴史感

百年桜に「歴史を感じさせる」については、「思う」児童は58名(65.9%)と多かった(表

表1 学校の景観形成

学校の景色を良くする		思う	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	28 (58.3 %)	20 (41.7 %)	48 (100.0 %)	*
	6年(n=40)	31 (77.5 %)	9 (22.5 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	59 (67.0 %)	29 (33.0 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	28 (60.9 %)	18 (39.1 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	31 (73.8 %)	11 (26.2 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	59 (67.0 %)	29 (33.0 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「思わない」の計

b: 学年別、男女別による「思う」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 *:p<.05 -:有意差なし

表2 シンボルツリーの歴史感

歴史を感じさせる		思う	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	28 (58.3 %)	20 (41.7 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	30 (75.0 %)	10 (25.0 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	58 (65.9 %)	30 (34.1 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	29 (63.0 %)	17 (37.0 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	29 (69.0 %)	13 (31.0 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	58 (65.9 %)	30 (34.1 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「思わない」の計

b: 学年別、男女別による「思う」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 *:p<.05 -:有意差なし

表3 落葉の季節感

落葉が季節を感じさせる		思う	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	31 (64.6 %)	17 (35.4 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	28 (70.0 %)	12 (30.0 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	59 (67.0 %)	29 (33.0 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	30 (65.2 %)	16 (34.8 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	29 (69.0 %)	13 (31.0 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	59 (67.0 %)	29 (33.0 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「思わない」の計

b: 学年別、男女別による「思う」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 *:p<.05 -:有意差なし

2)。百年桜のような巨樹は、歳月を重ね地道に大きく育ったものである。そうした樹木の大きさ、太さに日常的に触れていることや、授業や朝礼などで百年桜の話を担任や校長から聞くことを通して、歴史を感じるに至ったものと考えられる。

c. 落ち葉による季節感

シンボルツリーである百年桜の「落ち葉が季節を感じさせる」との項目に対して「思う」

との回答は58名(65.9%)であった(表3)。ソメイヨシノは3月から4月にかけて花が満開になる。桜が咲いているその時期は、別れや出会いの時期であり、春の季節を感じさせてくれる一面もあると考えられるが、児童の多くは花のみならず、その落ち葉に対しても季節感を持っていることがわかった。これは、百年桜以外の樹木を含め、落ち葉の時期には清掃が大変であり、そうした落ち葉に触れ合

表4 学校や地域の宝

学校や地域の宝		思う	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	22 (45.8 %)	26 (54.2 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	23 (57.5 %)	17 (42.5 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	45 (51.1 %)	43 (48.9 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	25 (54.3 %)	21 (45.7 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	20 (47.6 %)	22 (52.4 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	45 (51.1 %)	43 (48.9 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「思わない」の計

b: 学年別、男女別による「思う」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 * : p < .05 - : 有意差なし

表5 木の力強さ

木の力強さ		思う	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	18 (37.5 %)	30 (62.5 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	17 (42.5 %)	23 (57.5 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	35 (39.8 %)	53 (60.2 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	19 (41.3 %)	27 (58.7 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	16 (38.1 %)	26 (61.9 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	35 (39.8 %)	53 (60.2 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「思わない」の計

b: 学年別、男女別による「思う」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 * : p < .05 - : 有意差なし

表6 自然の大切さ不思議さ

自然の大切さ不思議さ		思う	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	17 (35.4 %)	31 (64.6 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	20 (50.0 %)	20 (50.0 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	37 (42.0 %)	51 (58.0 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	22 (47.8 %)	24 (52.2 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	15 (35.7 %)	27 (64.3 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	37 (42.0 %)	51 (58.0 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「思わない」の計

b: 学年別、男女別による「思う」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 * : p < .05 - : 有意差なし

う児童の経験が季節感につながっているのではないかと考えられる。

d. 学校や地域の宝

シンボルツリーである百年桜は「学校や地域の宝であり、誇るべきもの」と「思う」児童は45名(51.1%)であり、比較的多くの児童が感じていると言える(表4)。しかし、樹勢が衰えてきており、さらには学校では二代目のシンボルツリーを設定していることも

あることから、半数を超える程度に留まったのと推察される。

e. 木の力強さ、自然の大切さや不思議さ

「木の力強さを感じる」「自然の大切さ不思議さを感じる」について、「思う」児童はそれぞれ35名(39.8%)、37名(42.0%)であり、4割程度の児童が感じているに過ぎなかった(表5, 6)。学校ではキャラクターなどを作りシンボルとなっはいるものの、その生育

表7 シンボルツリーの保護意識

保護意識		守ってほしい ^a	その他 ^b	合計	有意差 ^c
学年別	5年(n=48)	37 (77.1 %)	11 (22.9 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	34 (85.0 %)	6 (15.0 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	71 (80.7 %)	17 (19.3 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	34 (73.9 %)	12 (26.1 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	37 (88.1 %)	5 (11.9 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	71 (80.7 %)	17 (19.3 %)	88 (100.0 %)	

a:「絶対に守ってほしい」「できれば守ってほしい」の計

b:「わからない」「切られても仕方がない」「その他」の計

c:学年別、男女別による「絶対に守ってほしい」「できれば守ってほしい」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 *:p<.05 -:有意差なし

表8 シンボルツリーの好感度

好感度		好き ^a	その他 ^b	合計	有意差 ^c
学年別	5年(n=48)	32 (66.7 %)	16 (33.3 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	23 (57.5 %)	17 (42.5 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	55 (62.5 %)	33 (37.5 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	24 (52.2 %)	22 (47.8 %)	46 (100.0 %)	*
	女子(n=42)	31 (73.8 %)	11 (26.2 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	55 (62.5 %)	33 (37.5 %)	88 (100.0 %)	

a:「好き」「どちらかといえば好き」の計

b:「どちらとも言えない」「どちらかといえば嫌い」「嫌い」の計

c:学年別、男女別による「好き」「どちらかといえば好き」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 *:p<.05 -:有意差なし

状況は極めて厳しく、児童が接することが制限されていること、一般的な樹木の芽吹きや開花に比べてその勢いが乏しいこと等が影響しているものと考えられる。

②シンボルツリーに対する保護意識

「もし、何らかの形でシンボルツリーである百年桜が切られそうになったら、どの様に考えますか」との質問に対し、「絶対守ってほしい」「できれば守ってほしい」「切られても仕方がない」「わからない」「その他」から回答を求めた。その結果、「絶対守ってほしい」と回答した児童は23名(26.1%)、「できれば守ってほしい」は48名(54.5%)であり、合わせて71名(80.7%)であった(表7)。このことから、多くの児童は生育状況が厳しくなっ

てきている百年桜に対して、自分たちの学校の大きな樹木が切られることは避けたいと考えていることがわかった。百年桜は現在、柱に支えられながら残存している。以前、地域に対して同様の質問を行った際に、地域の方々の保護に対する強い気持ちがあり、切るという選択はせずに、保護して残していくことになったという。したがって、地域の考えと同様に、児童も学校の百年桜を大切に保護し、何とか残したいと考えていることが窺える。

③百年桜への好感度

「あなたは小学校の百年桜が好きですか」との問いに対して、「好き」「どちらかといえば好き」「どちらとも言えない」「どちらかと

表9 身近で最も親しみのある木

親しみのある木		学校の百年桜	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	18 (37.5 %)	30 (62.5 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	19 (47.5 %)	21 (52.5 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	37 (42.0 %)	51 (58.0 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	18 (39.1 %)	28 (60.9 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	19 (45.2 %)	23 (54.8 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	37 (42.0 %)	51 (58.0 %)	88 (100.0 %)	

a:「公園の木」「近所の木」「街路樹」「神社やお寺の木」「その他」の計

b: 学年別、男女別による「学校の百年桜」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果

*: p<.05 -: 有意差なし

表10 百年桜の教育的活用

百年桜の教育的活用		ある	その他 ^a	合計	有意差 ^b
学年別	5年(n=48)	48 (100.0 %)	0 (0.0 %)	48 (100.0 %)	*
	6年(n=40)	26 (65.0 %)	14 (35.0 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	74 (84.1 %)	14 (15.9 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	36 (78.3 %)	10 (21.7 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	38 (90.5 %)	4 (9.5 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	74 (84.1 %)	14 (15.9 %)	88 (100.0 %)	

a:「どちらともいえない」「ない」の計

b: 学年別、男女別による「ある」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果 *: p<.05 -: 有意差なし

いえば嫌い」「嫌い」の5段階で回答を求めた。その結果、「好き」21名(23.9%)、「どちらかといえば好き」34名(38.6%)、合わせて55名(62.5%)と、60%以上の児童が百年桜に好感を抱いており、シンボルツリーとして大切な存在であると考えていることがわかった(表8)。二代目が設定されながらも児童の心の中で百年桜は重要な存在として位置づけられていることが窺える。なお、好感度については男女間で有意な差が認められた。このことは、既往の研究⁴⁾で指摘されているように、日常的な接触や教材としての活用などと係わりがあるものと推察される。

④親しみのある木

学校の中で子どもたち自身が、一番親しみを感じている木はどの樹木なのかを探るため、「学校の百年桜」、「公園の木」、「近所の木」等

を選択肢として「あなたの周りで、一番親しみを感じている木はどこにある木ですか」との質問を行った。その結果、「学校の百年桜」が37名(42.0%)と最も多く(表9)、続いて「公園の木」13名(14.8%)、「近所の木」9名(10.2%)などとなった。このことから、身近な樹木の中で学校のシンボルツリーである百年桜は一番親しみを持っている樹木として捉えている児童が多いことがわかった。こうした結果は、学校がシンボルツリーである百年桜をマスコット化するなどの取り組みをしてきたこと、児童が百年桜を調べたり、百年桜の周りで授業を受けたりしてきたことなどが影響しているものと考えられる。

⑤百年桜の教育的活用

児童が「百年桜を調べたり、百年桜の周りで授業を受けたりしてきた」経験の有無を聞

表11 百年桜を用いた授業を受講した効果

百年桜に対する意識の変化	5年(n=48)	6年(n=26)	合計(n=74)	有意差 ^c	男子(n=36)	女子(n=38)	合計(n=74)	有意差 ^c
百年桜を大切に思うようになった	24 (50.0 %)	14 (53.8 %)	38 (51.4 %)	-	16 (44.4 %)	22 (57.9 %)	38 (51.4 %)	-
休み時間や帰りなど、百年桜の近くに行くようになった	2 (4.2 %)	2 (7.7 %)	4 (5.4 %)	-	4 (11.1 %)	0 (0 %)	4 (5.4 %)	-
百年桜の葉や実、種などに興味を持つようになった	7 (14.6 %)	2 (7.7 %)	9 (12.2 %)	-	4 (11.1 %)	5 (13.2 %)	9 (12.2 %)	-
百年桜の他の木にも興味を持つようになった	6 (12.5 %)	2 (7.7 %)	8 (10.8 %)	-	4 (11.1 %)	4 (10.5 %)	8 (10.8 %)	-
百年桜について自分で何か調べてみた	3 (6.3 %)	2 (7.7 %)	5 (6.8 %)	-	4 (11.1 %)	1 (2.63 %)	5 (6.8 %)	-
百年桜の他の木について自分で考え、何か調べてみた	2 (4.2 %)	2 (7.7 %)	4 (5.4 %)	-	3 (8.33 %)	1 (2.63 %)	4 (5.4 %)	-
百年桜の他の木も大切に思うようになった	10 (20.8 %)	11 (42.3 %)	21 (28.4 %)	*	11 (30.6 %)	10 (26.3 %)	21 (28.4 %)	-
その他	12 (25.0 %)	5 (58.4 %)	17 (23.0 %)	-	8 (58.4 %)	9 (58.4 %)	17 (23.0 %)	-

c: 学年別、男女別によるフィッシャーの正確確率検定による結果 * : p < .05 - : 有意差なし

表12 百年桜の存在

百年桜の存在		良かった ^a	その他 ^b	合計	有意差 ^c
学年別	5年(n=48)	37 (77.1 %)	11 (22.9 %)	48 (100.0 %)	-
	6年(n=40)	36 (90.0 %)	4 (10.0 %)	40 (100.0 %)	
	合計(n=88)	73 (83.0 %)	15 (17.0 %)	88 (100.0 %)	
男女別	男子(n=46)	36 (78.3 %)	10 (21.7 %)	46 (100.0 %)	-
	女子(n=42)	37 (88.1 %)	5 (11.9 %)	42 (100.0 %)	
	合計(n=88)	73 (83.0 %)	15 (17.0 %)	88 (100.0 %)	

a: 「良かった」「どちらかといえば良かった」の計

b: 「どちらとも言えない」「どちらかといえば良くなかった」「良くなかった」の計

c: 学年別、男女別による「良かった」「どちらかといえば良かった」との回答におけるフィッシャーの正確確率検定による結果

* : p < .05 - : 有意差なし

いた(表10)。その結果、74名(84.1%)が「ある」と答え、多くの児童が百年桜に学校生活の中で何らかのかかわりを持って学習していることがわかった。また、5年と6年との間に有意差が認められたことから、学年によってその教育的活用に対する取り組みに大きな差異があると考えられる。しかし、保護意識については学年間で差異が認められていないことから、百年桜の教育的活用を単年で終わらせるのではなく、年数をかけて積み上げるとともに、集会や日常生活の中で百年桜を話題とした話を聞くなど、様々な形で百年桜に長く接してきたことが保護意識の形成につながるものと推察される。

⑥百年桜を用いた授業を受講した効果

表10において「ある」と答えた74名の児童に、「授業を受けて、授業をする前と比べて何か変化がありましたか」との質問を行った。その結果、「百年桜を大切に思うようになった」38名(51.4%)、「百年桜の他の木も大切に思うようになった」21名(28.4%)の順で多くの回答が見られた(表11)。したがって、授業を受けて意識が大きく変わり、受講の結果に対して前向きとらえている児童が多いと考えられる。特に、「百年桜の他の木も大切に思うようになった」については、5年と6年との間で有意差が認められた。このことから、シンボルツリーを取り上げ、低学年から継続して学習を積み上げることで、日常生活の中で目にする樹木に対しての見方や考え方が変

わるものと考えられる。そして、百年桜以外の樹木に対しても興味を持ち、保護意識が形成されるものと推察される。

⑦百年桜の存在

「あなたは百年桜が小学校にあることをどのように思いますか」との問いに対して、「良かった」「どちらかといえば良かった」「どちらとも言えない」「どちらかといえば良くなかった」「良くなかった」の5段階で回答を求めた。その結果、「良かった」48名(54.5%)、「どちらかといえば良かった」25名(28.4%)、合わせて73名(83.0%)と、80%以上の児童が百年桜が存在していることに対して好意的であり(表12)、その数は保護意識を持つ児童数よりも多かった。このことから保護の有無にかかわらず、百年桜は小学校のシンボルツリーとして許容されており、その存在が当たり前のように認識されていることが窺える。

4. まとめ

本研究では、小学校校庭に残存するサクラのシンボルツリーに対する児童の意識調査を通じて、その残存意義や教材としての価値などを探った。

学校には、樹木であるシンボルツリーがあることによって、自然の大切さや命の尊さを感じることができるなど、子どもたちにとってシンボルツリーは貴重な存在になっていることがわかった。景色を良くしてくれたり、学校の歴史を感じられたり、落ち葉や満開に咲く桜を見ることで、季節を感じたりすることもでき、美観形成に加え、良好な心理状態を保つうえでも重要な存在と考えられた。そして、何より自分たちの学校に百年桜というシンボルツリーが長い年月にわたって存在していることに誇りを持っており、親しみと保

護意識を持つ児童が多くいることがわかった。

樹木は実際に触れたり、見たり香りを楽しんだり、樹木にしか体感することができないことが多くある。それにより、児童の感性を豊かにしてくれる。近年では、そうした経験は、学校の授業で教材として活用し取り上げるか、自然と触れ合うイベントなどに参加しないと難しい。したがって、学校の親子ふれあい行事や授業の中で、そのような機会を作っていくことは重要であると考えられる。学校外の子どもの生活の中で、自然と触れ合うことは時代の流れもあり、機会が少なくなりつつある。したがって、学校現場の中にある樹木は児童にとって身近に自然を感じる貴重な存在と言える。シンボルツリーを活用した学習が、シンボルツリーそのもののみならず、日常生活で接する他の樹木への関心を誘発し、保護意識の醸成に寄与することから、理科や生活、総合的な学習の時間などを中心に⁶⁾、学校生活の中で広く取り上げていくことが望まれる。

参考文献

- 1) 長友大幸・下村孝(2006):校庭の巨樹を用いた環境教育受講経験が児童の意識に及ぼす影響、ランドスケープ研究第63巻5号、pp.829-834
- 2) 長友大幸・近江慶光(2003):小学校における巨樹が卒業生の意識および自然接触行動に与える影響、ランドスケープ研究第66巻5号、pp.847-850
- 3) 国立国会図書館デジタルコレクション<<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1311897>>、名所江戸百景、2022.7参照
- 4) 東京富士美術館ホームページ<https://www.fujibi.or.jp/our-collection/profile-of-works.html?work_id=1170>、富嶽三十六景東海道品川

御殿山ノ不二、2022.7.参照

- 5) 調査校ホームページ <<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/kamine-e/>>、2015.7参照
- 6) 長友大幸・下村孝（2010）：校庭に残存する巨樹への接近頻度と環境教育受講経験が児童の意識に及ぼす影響、ランドスケープ研究第73巻5号、pp.741-746